

1 小単元名 天皇中心の国づくり

2 単元の目標

- ・大陸文化の摂取，大化の改新，大仏造営の様子，貴族の生活とそれらに関わる人物や代表的な文化遺産に関心を持ち，進んで調べたり伝え合ったりしようとする。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- ・自他の考えを伝え合ったり各種の資料に基づいて調べたりすることで，天皇中心の政治が確立されたことや日本風の文化が起こったこと，それらに関わる人物の願いや代表的な文化遺産の意味について考え，適切に表現することができる。
(社会的な思考・判断・表現)
- ・文化財の写真，地図や年表，その他の資料を活用して，聖徳太子の働きや大化の改新，大仏造営や大陸文化の摂取，貴族の生活などについて具体的に調べることができる。
(観察・資料活用の技能)
- ・聖徳太子や中大兄皇子，中臣鎌足，聖武天皇らの働きによって天皇中心の政治が確立されたことや藤原道長ら貴族が栄えたところに日本風の文化が起こったことが分かる。
(社会的事象についての知識・理解)

3 単元について

本小単元「天皇中心の国づくり」では，児童が大陸文化の摂取や大化の改新，大仏造営の様子，貴族の生活に関心を持ち，天皇を中心とした政治や社会の仕組みが確立したことを理解することをねらいとしている。加えて，京都に都が置かれたところに日本風の文化が起こったことが理解できるようにするとともに，我が国の伝統や文化を大切にしようとする態度を育てることを主なねらいとしている。

本小単元は，法隆寺・東大寺という二つの世界文化遺産を活用することで，伝統文化を保存，継承しようとする態度を育てるのに適した題材であると考えられる。また，天皇を中心とした国づくりは，聖徳太子によって政治の仕組みが整えられ，その後，中大兄皇子によって受け継がれ，聖武天皇の大仏造営を基盤に確立されていく。さらに，平安時代になると，都に住む貴族たちが，摂取した大陸文化を日本に合うように変えていったことの歴史的意義も大きい。近年，遷都1300年をお祝いしたこと，その場所が世界遺産に登録されていることは，児童の興味・関心を大きく喚起していくことにもなると思われる。

4 児童について

歴史学習に対しては非常に強い関心を示す児童がいる反面，あまり興味を示さない児童や覚えることの多さ，難しい歴史用語などのために敬遠しがちな児童がいることも確かである。そこで，昨年度の終わりに，少しでも歴史に興味をもたせることに主眼を置いた授業を行ったところ，学年当初の調査では，「歴史がきらい・興味がない」という児童はほとんどいなかった。

また，これまでの間，驚きのもてる教材を提示したり，児童が想像力を発揮して取り組める言語活動などを取り入れたりして支援してきた。授業においても，教師や友達の発言に対して，意欲的に反応する姿が見受けられるようになってきた。

しかしその一方で，歴史上のできごとの因果関係を主体的に考えたり，資料を適切に読み取ったりする力はまだまだ定着していない。また，考えたことを適切に表現することをやや苦手としている児童も多い。

5 指導について

本年度の研究主題は「未来につながる力をもつ子どもの育成」である。この主題に迫るためには，自ら学ぶ意欲を引き出す工夫や仲間とつながり合い，高め合うための話し合い活動を充実する必要があると考える。

本小単元においては，世界文化遺産などの資料を効果的に使うことや，驚きや意外性のある資料を使用することで，児童の興味・関心を引き出していきたい。また，そこから分かったこと，不思議に思ったことなどを読み取る活動やそれをもとにした話し合い活動を通して，問題解決を図っていきたい。

本時では，導入時に平安時代の女性の美しさの条件や十二単の絵図から平安貴族の生活に対する興味を引き出したい。資料を読み取る活動を行うにあたっては，まず児童一人一人に資料から分かったことや考えたこと，不思議に思ったことなどを自分の言葉でノートやワークシートに書かせたい。その上で，小グループを編成し意見交換を行うことによって，自己の考えをより深めたり広めたりするとともに，友達の考えを認め合う活動を取り入れていきたい。さらに，小グループで話し合われた内容を学級全体で共有し，学習課題に迫る話し合い活動を展開していきたい。

- 6 指導計画（10時間配当）
- 第1次 世界文化遺産の法隆寺 (1時間)
 - 第2次 聖徳太子の国づくり (1時間)
 - 大化の改新と天皇の力の広がり (1時間)
 - 仏の力で国を治める (1時間)
 - 全国から集められた人々が大仏をつくる (1時間)
 - 大陸の文化を学ぶ (1時間)
 - 第3次 貴族のくらし (1時間 本時)
 - 力をもった藤原氏 (1時間)
 - 日本風の文化が生まれる (1時間)
 - 第4次 主人公ポスターを書こう (1時間)

7 本時の目標

- ・貴族のくらしの様子を、屋敷の想像図、貴族と庶民の食事などの資料を活用して調べ、読み取ることができる。

8 準備物

平安美人の絵、寝殿造りの想像図、貴族の1日の生活を表したカード、ホワイトボード

9 本時の学習過程

学 習 活 動	支 援 (・) と 評 価 (☆)
<p>○平安時代の女性の絵を見て、貴族の生活について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">貴族はどんなくらしをしていたのだろう</p> </div> <p>○貴族の屋敷の想像図から、貴族の生活を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな屋敷だ。きっとすごい権力をもっていたのだろう。 ・池があるので、つりや水遊びをしていたんじゃないだろうか。 ・大きな庭があるので、季節の景色などを楽しんでいたのだろう。 ・蹴鞠をしている。 ・門のところに車（牛車）がある。出かけるときは車を使っていたんじゃないかな。 <p>○貴族の1日の生活をカードにしたものを提示し、グループで予想し合い、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起きる→占いを見る→日記を書く→朝食→入浴→宮中での仕事→遊び→夕食→寝る <p>○貴族の遊びや食事の資料を提示し、本日の学習より貴族の生活を一言でまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・華やかな生活 ・ぜいたくな生活 ・豪華な生活 ・セレブな生活 <p>○藤原道長の「望月の歌」について、感想を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平安時代の美人の条件や十二単に着目させ、その生活や屋敷へと興味を喚起する。 ・想像図を読み取る時の視点を提示する。 ・できるだけ読み取った事実と、そこから分かることや予想、疑問などを付け足して考えるように促す。 ・教科書の文章資料や資料集なども参考に考えさせる。 ☆想像図から、貴族の生活を読み取っているか。（発言、ワークシート…技能） ・ホワイトボードでカードを操作しながら話し合いをさせる。 ・余分なカードを入れておき、現代の生活との違いを際立たせる。 ・貴族の生活を支えた農民とはかけ離れた生活だったことに驚きをもたせる。 ☆貴族の生活について理解することができたか。（発言、ノート…知識・理解） ・なぜこのような強い権力をもつようになったのかという問題意識をもち、次時につなげる。

10 授業の観点

- ・貴族のくらしを理解させるための手立てとして、授業構成や資料提示の仕方、話し合いのさせ方は適切であったか。